

第1 刑法犯の現況

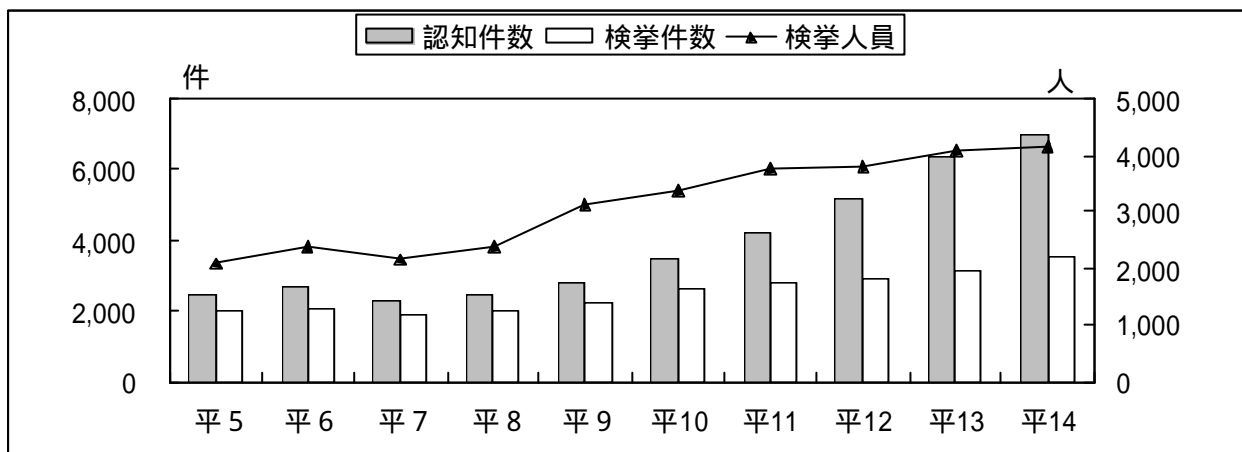
1 刑法犯の特徴的傾向

重要犯罪 ～ 強盗の増加が大きい

平成14年中の重要犯罪（殺人、強盗、放火、強姦の凶悪犯に略取・誘拐、強制わいせつを加えたものをいう。以下同じ。）の認知件数は2万2,294件、検挙件数は1万1,186件、検挙人員は1万29人である。

重要犯罪の中では、強盗の認知件数は10年間で2.8倍と大きく増加した（図表1-1）。強盗の手口別にみると、侵入強盗の中では上がり込み、非侵入強盗の中では路上強盗の増加が大きい（12、21ページ参照）。

図表1-1 強盗の認知・検挙状況の推移（10年間）



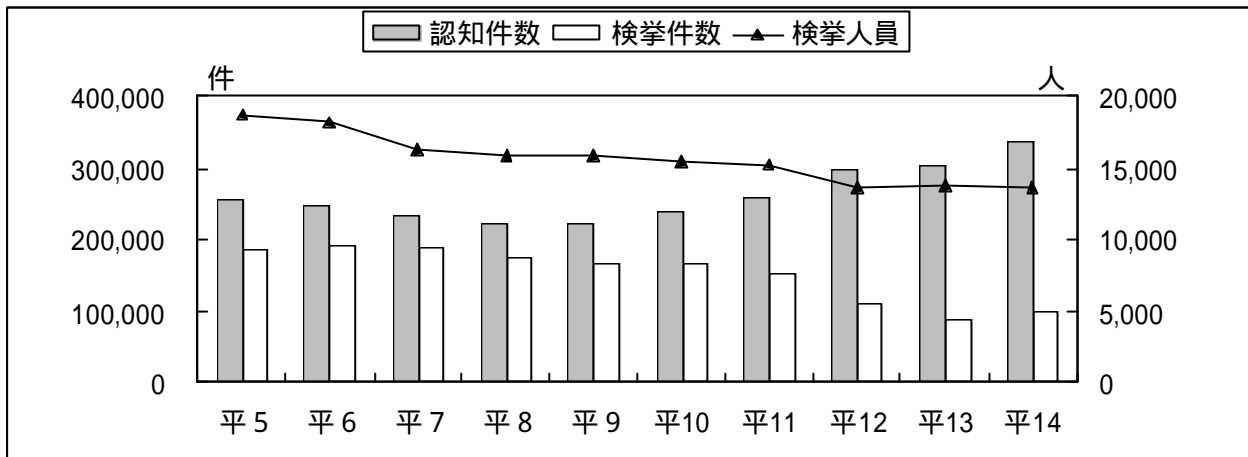
年次	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	2,466件	2,684	2,277	2,463	2,809	3,426	4,237	5,173	6,393	6,984
検挙件数	1,970件	2,100	1,882	1,974	2,232	2,614	2,813	2,941	3,115	3,566
検挙人員	2,089人	2,372	2,169	2,390	3,152	3,379	3,762	3,797	4,096	4,151

重要窃盗犯 ~ 侵入盗、特に住宅対象の侵入盗の増加が大きい

重要窃盗犯（窃盗犯のうち、侵入盗、自動車盗、ひったくり、すりをいう。以下同じ。）の認知件数は47万8,476件、検挙件数は13万3,960件、検挙人員は2万2,425人である。

重要窃盗犯の中では、侵入盗の認知件数が10年間で8万3,778件増加した（図表1 - 2）。侵入盗の中でも、住宅対象の侵入盗の増加が大きい（16ページ参照）。

図表1 - 2 侵入盗の認知・検挙状況の推移（10年間）

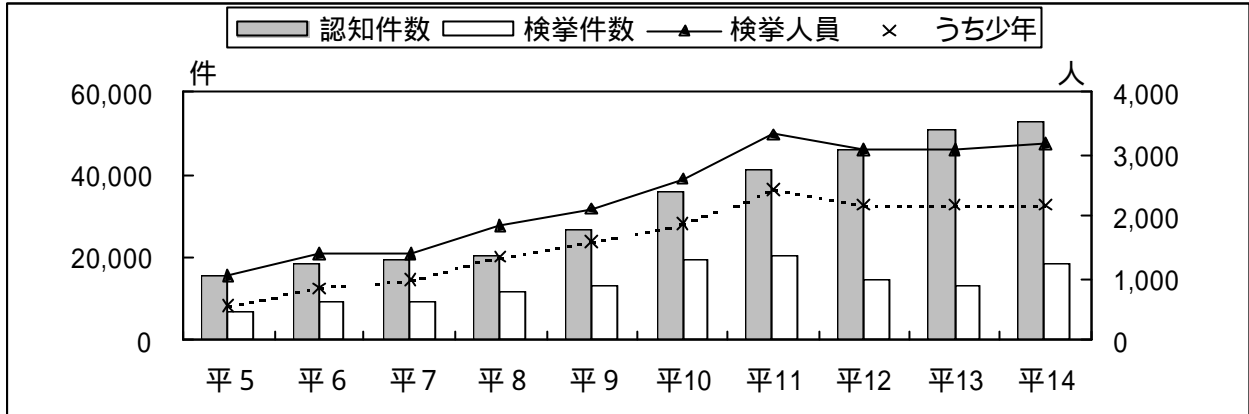


年次 区分	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	254,516件	247,661	234,586	223,590	221,678	237,703	260,981	296,486	303,698	338,294
検挙件数	184,664件	192,510	189,368	174,116	166,119	165,818	152,984	109,128	89,456	98,335
検挙人員	18,741人	18,168	16,275	15,866	15,859	15,480	15,234	13,651	13,712	13,696

**街頭犯罪 ～ ひったくりの認知件数の増加が大きい、検挙実績が大幅に向上
検挙人員に占める少年の割合が高い**

ひったくりの認知件数は増加傾向にあるが、14年は検挙件数が大幅に増加した。また、ひったくりや路上強盗等、主な街頭犯罪の手口で検挙人員に占める少年の割合は依然として高い(図表1-3)(21、22ページ参照)。

図表1-3 ひったくりの認知・検挙状況の推移(10年間)

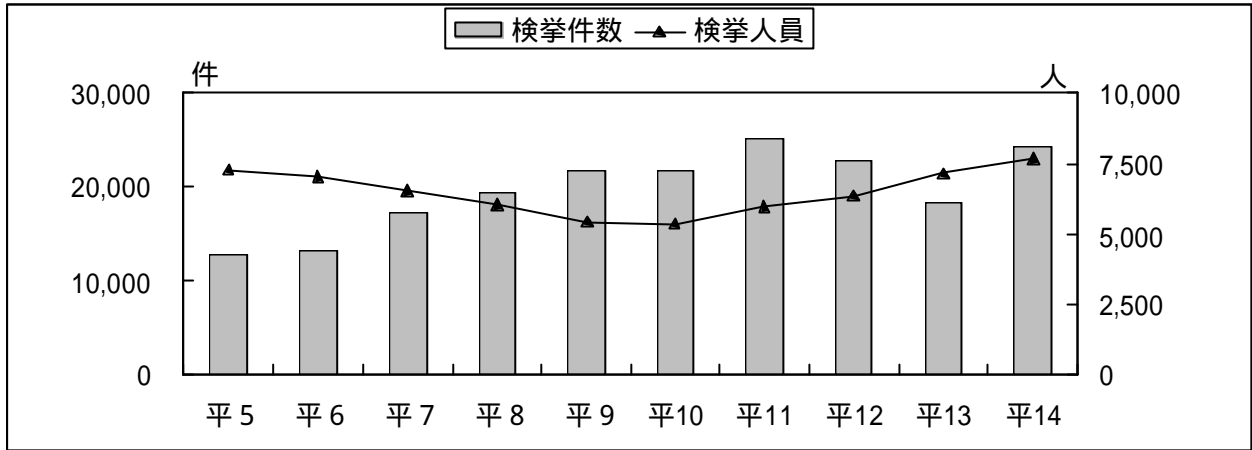


年次 区分	平5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	15,854件	18,563	19,220	20,515	26,980	35,763	41,173	46,064	50,838	52,919
検挙件数	7,304件	9,455	9,525	11,696	13,373	19,636	20,597	14,796	12,925	18,434
検挙人員	1,054人	1,406	1,408	1,845	2,118	2,605	3,304	3,072	3,078	3,158
うち少年	582人	835	973	1,331	1,568	1,871	2,420	2,179	2,190	2,166

来日外国人刑法犯 ～ 検挙件数、検挙人員ともに増加

来日外国人刑法犯の検挙件数は、12年、13年には前年比で減少していたが、14年には増加に転じた。検挙人員は、11年以降増加傾向にある。

図表 1 - 4 来日外国人刑法犯の検挙状況の推移（10年間）



年次 区分	平 5	平 6	平 7	平 8	平 9	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
検挙件数	12,771件	13,321	17,213	19,513	21,670	21,689	25,135	22,947	18,199	24,258
検挙人員	7,276人	6,989	6,527	6,026	5,435	5,382	5,963	6,329	7,168	7,690

全刑法犯 ～ 検挙実績が向上するもなお認知件数が増加

刑法犯の認知件数は285万3,739件、検挙件数は59万2,359件、検挙人員は34万7,558人である。認知件数は増加傾向にあり、平成8年以降、毎年戦後最多を記録している。検挙件数は減少傾向にあったが、14年には増加に転じた。検挙人員は平成に入り最多である（65ページ図表3 - 1参照）。